

第 19 回解剖技術研究・研修会参加報告

医学系部門 基礎社会医学班

中谷 宣弘

1. はじめに（目的等）

本会は日本解剖学会学術総会に併行して行われる解剖技術研究会であり、解剖学関係、とりわけ献体を取り扱う技術職員の研修を目的とし、形態学分野における技術の伝承と発展を基本理念と考え、日常の解剖技術業務に関する報告、現状の問題点等を研究会での発表を通して意見交換を行い、今後の業務遂行に役立てることとしている。

2. 期間・場所

期間：2019年3月27日（火）

場所：東京都武蔵野市 日本医科大学武蔵境校舎

3. 参加者等

各大学の解剖学技術系職員 約 50 名

4. 研修内容

今回の研修会では、教育講演と一般演題を聴講した。一般演題の多くは近年急速に普及している医師による手術手技を目的とした解剖研修についての話題であった。また、前日の幹事会に参加し、進行の打ち合わせを行い、当日は会場準備・片付け、受付と会計業務を行った。

5. まとめと感想

前述した医師による解剖研修の話題がとても印象に残った。これは、学生が人体の正常構造を知る目的で行う従来の解剖実習とは異なり、卒後医師が手術手技を向上させるための解剖である。一般的にサージカルトレーニングと呼ばれ、平成 24 年に厚生労働省からガイドラインが発表されたのを契機に国内において急速に普及し始めた。しかし本学ではこの点において少し出遅れており、現在作業部会が立ち上がった段階で、次年度から本格的に始動するのではとされている。そのため、今回の講演では、サージカルトレーニング立ち上げにおいて施設整備やご遺体の処置法の変更などに携わった話題など参考になるものが多く非常に勉強になった。今後本学でサージカルトレーニングが導入された際には、今回得た知見も参考にし、より質の良い技術支援が出来るよう尽力していきたい。